

8 パナマにおける邦人への営業停止問題

1413

昭和16年11月1日

東郷外務大臣より
在パナマ秋山公使宛(電報)

パナマ政府による邦人への営業禁止措置に対

し抗議および差し当たりの要求申入れ方訓令

別電

昭和十六年十一月一日發東郷外務大臣より在

パナマ秋山公使宛第九一號

在本邦パナマ公使へのわが方抗議内容

本省 11月1日後5時発

第九〇號(至急、極祕)
貴電第二三四號二關シ

二、山本亞米利加局長ヲシテ在京「パナマ」公使ニ對シ別電
ノ通り不取敢抗議セシムヘキニ付貴公使ハ右ト同様趣旨
ニテ嚴重ナル正式抗議ヲセラレ結果回電アリタク本件ハ
他ノ南米諸國ニ對スル影響モアリ又米國ニ對シ我方ノ毅
然タル態度ヲ反映セシムル要アル點ニモ鑑ミ我方トシテ
ハ今後斷乎タル態度ヲ以テ臨ム意嚮ナリ

三、現下ノ國際時局及船腹並ニ燃料補給ノ極度ノ困難ニ鑑ミ
引揚船ノ配船ハ差當り至難ナルカ目下關係各省ト協議中
ナル處生活上巴奈馬ニ殘存シ得サル者ニ付テハ飽々迄前
項ノ⁽³⁾⁽⁴⁾南米諸國ヘノ轉入國ヲ「パナマ」政府ニ斡旋セ
シメラレタク之ト併行シテ貴公使ニ於テモ關係國公使ニ
對シ極力工作セラレタク在留民ハ如何ナル場合ニ於テモ
輕舉妄動セス協力一致シテ情勢ニ對處スル様嚴重ニ諭示
セラレタシ

四、情況ニ依リテハ公使引揚ノ段階ニ到達スルコトナキヲ保
シ難キ處我方力輕々ニ引揚ヲ行フハ米國ノ思フ壱ニ嵌ル
結果トナル次第ニモ鑑ミ又實際上邦人保全ノ善後措置及

ヒ米艦移動諜報ノ爲ニモ飽ク迄粘リ強ク存續スルコト肝要ニシテ報復措置等ニ付テモ目下慎重考究中ナリ就テハ情況ノ推移及貴公使ノ執ラレタル措置竝ニ見透シ等ニ付隨時電報アリタシ

(當方ニ於テハ必要ニ應シ本件經緯ヲ新聞ニ發表方手配中ナリ)

五、尙三十一日本大臣外交團接見ノ際「パナマ」公使ニ對シ簡單ニ本件ニ言及シ本國政府ニ「インフルエンス」方述ヘタルニ同公使ハ本國政府ヨリ何等通報ニ接シ居ラサル旨語リ居タリ

猶豫期間サヘ拒否セルヤノ情報アリ斯クノ如キハ類例ナキ非人道的暴舉ニシテ友邦タル我國ニ對スル態度ト受取レス全ク非友誼的措置ト云ハサル可ラス

由來在「パナマ」本邦人ハ經濟各部門ニ於テ「パナマ」ノ

發展ノ爲努力シ來リ低廉ナル邦品ヲ供給シテ其ノ國民生活ニ寄與シ又「パナマ」ヲ中繼地トスル中米及「カリビア」方面ニ對スル邦品ノ輸出ニ依リ「パナマ」財政ニモ多大ノ貢獻ヲ爲シ來リタルモノニシテ「パナマ」及「パナマ」人

力在留本邦人ヨリ受ケタル經濟的利益ハ決シテ僅少ナルモノニ非ス、「パナマ」ヨリ本邦人ヲ閉出スコトニ因リ「パナマ」ノ蒙ルヘキ損失及「パナマ」人ノ國民生活ニ及ホスヘキ影響ハ充分考慮スルノ要アルハ勿論ナリトス
我方ニ於テハ日巴國交ノ重要性ニ鑑ミ最近特ニ公使ヲ派遣本邦人除外方ニ關シ「パナマ」政府ノ好意的考慮ヲ要望シ

本省 11月1日後5時発

(別電)

第九一號(至急)

來リタル次ニシテ飽ク迄「パナマ」政府ノ誠意ニ信シ
日巴兩國友交關係ノ大局的見地ヨリ好意的措置ヲ執ラルルモノト期待シ居タリ
然ルニ「パナマ」政府ハ今回本邦人ノ營業ヲ禁止シ是等邦人ヨリ生計ノ途ヲ奪ヒ路頭ニ迷ハスカ如キ措置ニ出テタルノミナラス邦人商社ノ有スル商品「ストツク」處分ノ爲ノ猶豫期間サヘ拒否セルヤノ情報アリ斯クノ如キハ類例ナキ非人道的暴舉ニシテ友邦タル我國ニ對スル態度ト受取レス全ク非友誼的措置ト云ハサル可ラス
由來在「パナマ」本邦人ハ經濟各部門ニ於テ「パナマ」ノ發展ノ爲努力シ來リ低廉ナル邦品ヲ供給シテ其ノ國民生活ニ寄與シ又「パナマ」ヲ中繼地トスル中米及「カリビア」方面ニ對スル邦品ノ輸出ニ依リ「パナマ」財政ニモ多大ノ貢獻ヲ爲シ來リタルモノニシテ「パナマ」及「パナマ」人カ在留本邦人ヨリ受ケタル經濟的利益ハ決シテ僅少ナルモノニ非ス、「パナマ」ヨリ本邦人ヲ閉出スコトニ因リ「パナマ」ノ蒙ルヘキ損失及「パナマ」人ノ國民生活ニ及ホスヘキ影響ハ充分考慮スルノ要アルハ勿論ナリトス
我方ニ於テハ日巴國交ノ重要性ニ鑑ミ最近特ニ公使ヲ派遣

シ兩國間國交ノ敦厚化ニ一段ノ努力ヲ盡シツツアル際ニ「パナマ」政府カ今次ノ如キ暴舉ニ出テタルハ正常ノ觀念ヲ以テシテハ理解シ難ク兩國間ノ友交關係カ之ニ依リ毀損セラルコトナレハ極メテ遺憾ノコトナルカ右ハ全ク「パナマ」政府ノ責任ト云ハサルヲ得ス帝國政府ハ此ノ點ニ關シ「パナマ」政府ノ注意ヲ喚起スルモノナリ

1414

昭和16年11月1日

(在パナマ秋山公使より
東郷外務大臣宛(電報)

営業禁止問題に関するパナマ政府への抗議振
り請訓

パナマ 11月1日後発
本省 11月2日後着

第一三九號(大至急)

貴電第九〇號ニ關シ(在留邦人營業禁止ニ關スル件)

正式抗議ハ極力嚴重行フ筈ナリ又從來斯ノ如キ不合理ノ法律實施ニ依リ今後邦人ノ生活ヲ如何スル積リナリヤ常々先方ニ捺込來レル次第ナルカ冒頭貴電二ノ差當リ抗議モ今明日本申入ルル豫定ナルカ巴奈馬ノコトトテ又獨立祭モ續

り回訓

1415

昭和16年11月3日

(東郷外務大臣より
在パナマ秋山公使宛(電報)

営業禁止問題に関するパナマ政府への抗議振
り回訓

キ六日迄事務ヲ執ラス往電第二三七號申入(要點ハ一)今後日巴經濟關係保持増進ニ對スル先方具體案明示要求(ニ)貴電第九〇號ニ(ノ)猶餘期間要求ナリ)ニ對スル回答スラ同日後ニナルヘシトノ先方ノ言草ニ付早速ニハ交渉捲ラサルコトハ豫メ御含アリタシ
尙貴電正式抗議中ニハ人種論ハ避ケラレ非人道論ニ留マル處右ノミニテ差支ヘ無キヤ又差當リ抗議ニ對スル先方ノ出方ヲ見タル上正式抗議ヲ爲ス事適當ナラサルヤ貴見折返シ御回電アリタシ更ニ往電第一三八號申進ノ通「フエラリー」公使ニ抗議セラルル場合ハ知ラヌ存セヌト言フ如キ不誠意ハ受付ス正式回答ヲ是非共求ムル様致度シ右爲念
又邦人ハ過去六箇月間ノ猶豫期間内ニテ相當歸國ノ決心及準備ハ爲シ居リタルモ天野商店ニハ尙在庫品三十萬弗アル由ナリ

本省 11月3日後3時40分発

第九二號(至急)

貴電第二三九號ニ關シ

往電第九〇號ノ二ノ差當リノ抗議ヲ申入レ先方ノ出方ヲ見タル上時機ヲ逸セス嚴重ニ正式抗議ヲ爲サレ度ク其ノ際ハ非人道論ト共二人種論ニモ重點ヲ置カレ度シ尙今後ノ折衝ニ際シ巴奈馬側ノ態度ニヨリテハ我方モ本邦及東亞ノ共榮圈内ノ地域ニ於テ巴奈馬側ニ對シ適當ノ措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルヘキ旨適宜說示セラレ度シ(報復措置ノ具體案ニ付テハ追電ス)

1416

昭和16年11月4日

東郷外務大臣より
(在メキシコ三浦公使、在ブラジル石射
大使宛(電報))

パナマにおける営業禁止措置実施の経緯通報

および同様措置なきよう任国へ工作方訓令

合第二三五六號

本省 11月4日後8時發

「パナマ」政府ハ本年一月憲法ヲ改正シ黃色人種ヲ禁止移民トシ更ニ三月禁止移民ノ「パナマ」ニ於ケル營業ヲ禁ス戰終了後東亞市場ノ喪失東亞共榮圈ニ於ケル不利ナル取扱

就テハ貴官ハ貴任國(兼任國ヲ含ム)政府ニ對シ適當ノ機會ヲ捉ヘ右「パナマ」政府ノ措置カ人道ヲ無視セル暴舉ナルコト及「パナマ」カ如何ニ米國ト特殊關係ニ在リトハ云ヘスル暴舉ニ依リ友邦ヲ失フコトハ現下戰局ノ推移ニ鑑ミ大

ル趣旨ノ商工取締法ヲ制定セルカ我方ハ隱忍自重シテ折衝乃至工作ニ盡シタル結果前大統領ヨリ之カ緩和實施方ノ約諾ヲ取付ケ居タルニ拘ハラス十月八日ノ「クーデター」ニテ出現セル新大統領トナリテハ急轉直下對日態度惡化シ前大統領ノ好意の方針ハ全ク根底ヨリ覆サルルニ至リ十月二十八日我方ニ對シ同二十九日以後在留邦人ノ營業繼續ヲ禁スル旨申シ越シ剩ヘ我方ノ要求セル邦品「ストツク」處分ノ猶豫期間サヘ拒否セリ右ノ結果同國在留邦人約三百八十名ハ生計ノ途ヲ奪ハレ他ノ南米諸國ヘノ轉出又ハ本邦ヘノ引揚不能ノ場合ハ路頭ニ迷フコトトナリ誠ニ寒心ニ耐エサル事態發生スヘキ處本件裏面ニハ米國ノ策動アルコト疑ワ容レサル所ニテ我方トシテハ他ノ諸國ヘノ波及ヲ防止シ且ツ米國ニ對シ我方ノ毅然タル態度ヲ反映セシムル爲ニモ斷乎タル態度ヲ以テ臨ム意嚮ナリ

其ノ他ノ報復ヲ受クルノ已ムナキニ至ルヘク (二字アキ)
ヲ百年ニ胎

ス愚擧ナル所以ヲ説示セラル等此ノ際凡ユル手段ヲ盡シ
貴任國ニ於テ「パナマ」類似ノ措置ヲ執ラルカ如キコト

ナキ様工作セラレ度尙貴任國ニ於ケル本件反響等電報アリ
タシ

本電宛先 在伯大使、在墨公使

本大臣ノ訓令トシテ玖馬ヘ轉電シ参考トシテ米、「パナマ」
ヘ轉電アリタシ

本大臣ノ訓令トシテ亞、智、祕、「コロンビア」、「ヴエネズ
エラ」ヘ轉電アリタシ

~~~~~

1417 昭和16年11月5日 在パナマ秋山公使より  
東郷外務大臣宛(電報)

### 営業禁止問題に関しパナマ外相へわが方抗議

#### 文提出について

別電 昭和十六年十一月五日發在パナマ秋山公使よ

り東郷外務大臣宛第二四四号

右抗議文に追加した人種差別に関する部分

#### 第二四三號(大至急)

パナマ 11月5日後發  
本省 11月6日前着

貴電第九二號ニ關シ(巴奈馬ニ於ケル邦人壓迫ニ關スル件)  
差當リ抗議ニ付外相ニ會談ヲ求メタルモ外相ハ祭日ヲ故ト

シ面會ヲ謝絶シタルニ依リ獨立祭當日大統領ニ對シ今般ノ  
營業統制法ニ依リ我カ居留民ハ慘酷ナル位置ニ置カレタル  
ニ依リ日本政府トシテハ貴大統領ノ「シリアルス」ナル考慮

ヲ求メサルヲ得サル旨ヲ以テセル處同大統領ハ右ハ充分ニ  
外相ニ話サレタント言ヘルニ付五日外相ニ面會帝國政府ト  
シテハ居留民ノ窮狀ニ鑑ミ差當リノ方法トシテ人種差別論

及非人道論ノ理由ヲ附セル貴電第九〇號ノ二ノ要求ヲ「ノ  
ウトベルバル」(二日附)トセルモノヲ手交シタル處同大臣

ハ一讀ノ上考込ミタルモ猶日本全居留民ヲ日本ニ送還シ得  
サルヤトカ又ハ農民トナリ得サルヤ等質問シ不誠意ヲ示セ  
ルヲ以テ

本使ハ更ニ本件ハ兩國ノ友好關係ニ對シ重大ナル阻害ヲ與  
フルモノナリト認ムルニ依リ茲ニ帝國政府ノ命ニ依リ正式  
抗議ヲ提出セサルヲ得ストテ貴電第九一號ノ抗議文ノ二項

ノ次へ別電第二四四號ノ如キ人種差別論ヲ附加シタル外相宛書翰(五日)ヲ提出シ考慮ヲ求ムルト共ニ之ニ對シ明確且迅速ナル回答ヲ與ヘラレタキ旨ヲ以テセル處同外相ハ右ヲモ一讀ノ上何分ノ回答ヲ至急致ス様取計フヘシト述ヘタリ依テ本使ハ事居留民ノ生活ニ關シ現状ハ戰時「インター」セラルヨリ酷ナルニ付理髪店ノ如キハ即座ニ開店セシムル様申シ述ヘタル處大臣ハ之ヨリ直ニ閣議アルニ依リ至急諮詢見ルヘシト答ヘタリ

## (別電)

### 第二四四號

日本臣民ニ對シ法律第二十四號ノ禁止規定ヲ適用スルコトハ地峽ニ於ケル日本商業ノ完全ナル排斥及禁遏トナルノミナラス巴奈馬官憲ハ日本人カ禁止移民ニ屬ストノ明確ナル細目法規ヲ缺クニ拘ラス憲法ノ規定ヲ適用シテ共和國港灣碇泊中ノ船舶ノ船員及善意ノ商人竝ニ旅行者ヲ含ム日本人全體ノ入國及通過ヲ禁止セリ即チ巴奈馬政府ハ新憲法ニ含

マルル差別的待遇ヲ日本人ニ適用セントスル意志ヲ有スルコトハ否定スヘカラス右ハ他ノ文明國タル第三國ノ國民ニ比シ明白ニ日本人ノ差別待遇ヲ與ヘタル事實ヲ以テ日本人ニ侮辱ノ焼印ヲ押セリ前記總テノ事實ハ日本國ニ對スル非友誼的行爲ヲ構成スルモノニシテ右ハ帝國政府ハ絕對容認スル能ハサル所ナリ

編注 本電報の発電日は十一月四日となつてゐるが、五日の誤りと思われる所以改めた。

。。。。。。。。。。。。。。

1418

昭和16年11月5日

在パナマ秋山公使より  
東郷外務大臣宛(電報)

### 営業禁止問題に関する対パナマ報復手段などにつき意見具申

パナマ 11月5日後發  
本省 11月6日前着

貴電第九〇號(本邦人ニ關スル營業禁止措置ニ關スル件)竝ニ往電第二四三號ニ關シ

(1) 第二四五號(大至急、絕對極祕)

一、先方ノ態度ハ相當深刻ニ反省スルトハ思考スルモ日本人ヲ追拂ハントスル思想ヲ有スルハ否ムヘカラスノミナラス現政府ハ政變ノ後相當米國ヨリ資金ヲ得居レリトノ情報アリ又米國ノ愛兒ニテ兩洋ノ鍵鑰タル運河防衛ニハ文句無ク服從スルモノナルニ顧ミ本件抗議ハ毅然且斷乎タラシムル爲ニハ是非共我方ハ報復手段ヲ執ルヲ要シ假ニ居留民保護ヲ名トシテ巴奈馬國一部ヲ保障占領シ得ストスルモ我方ノ甚大ナル損害ト「プレステイジ」ニ鑑ミ東亞ニ現存スル巴奈馬國旗ヲ掲クル一切ノ船舶ヲ拿捕沒收スル事適當ニシテ其ノ時期ハ貴方ノ都合ニ應シ取計フ事ト致度シ尤モ右ハ暗密裡ニ然モ急遽之ヲ行フヲ要シ貴電第九二號ノ如キ適當ノ措置ヲ執ルト云フカ如キ事ヲ先方ニ説示スルハ贊成シ得ス

二、本件報復手段ノ御採用ノ場合ニ於テハ先方ハ在米國巴奈馬大使ヨリ米國ト聯絡シテ在米帝國大使館ニ折衝シ來ランモ右ハ受付シメサル様致度ク又前記船舶沒收ノ場合所有者ノ屬スル國ヨリ抗議來ランモ右抗議ハ巴奈馬政府經由申出テシムル様申聞ケラレタシ

三、「ヘラリ」公使ニ對スル抗議ニ對シテハ至急御實施ノ上本使折衝ヲ援助セラレタク又必ス正式回答ヲ至急求メラレタシ又先方回答力遲レ又ハ其ノ回答ニ於テ人種問題ニ付讓歩セサル場合ハ止ム無ク本省ト共ニ本件抗議文ヲ當方ニ於テモ發表致スヘキモ右ノ場合ハ在米各公館ニ於テモ本件ニ關スル啓發ヲ行フ様豫メ指圖方御手配アリタシ四、<sup>(3)</sup>居留民ニ對シテハ當領事館ヨリモ巴奈馬地方官憲ニ對シ保護竝ニ生活ノ保障、營業ノ再開等斡旋セシメ居留民ハ此處ニ落着キ陳情ヲ爲ス等指導シ居レリ本使ノ取調ニ依レハ居留民ハ六十軒二百餘人ニシテ歸國希望者ノミ多ク而モ金無ク第三國ヘ轉入スルカ如キ希望ヲ有スル者無シ依ツテ困難ナルモ當地ニ於テ勞務關係ノ仕事ニ振り向ケテ生活ヲ維持セシムル様努力スル考ヘナリ

五、先方カ我方相當リノ正式抗議ニ對シ如何ナル態度ヲ執リ來ルヤ豫斷シ得サルモ猶豫期間等ニ付テハ何ントカ讓步スルナランモ人種差別ニ付テハ法律ノ變更乃至ハ解釋等ハ與ヘサルモノト豫想スルニ付前記報復手段ハ暗密裡ニ突如行フ様致度シ

1419

昭和16年11月6日

東郷外務大臣より  
在パナマ秋山公使宛(電報)

パナマ政府の対応によつては營業禁止措置への  
わが方抗議内容などを発表する意向について

本省 11月6日後7時40分発

第九三號(至急)

貴電第二四五號ニ關シ

一日在京「フエラリー」公使ヲ招致シ山本局長ヨリ往電第  
九一號ノ趣旨ノ抗議ヲナシ直チニ巴奈馬外務大臣宛電報方  
ヲ求メ且ツ至急巴奈馬政府ノ正式ノ回答ヲ要求スル旨念ヲ  
押スト共ニ帝國政府ハ本件ヲ極メテ重大視スルモノナルコ  
トヲ本國政府ヘ徹底方嚴重ニ要求シタルニ對シ同公使ハ實  
ハ今次本國政變以來本國政府ヨリ何等情報ニ接シ居ラサル  
旨述ヘ且ツ早速帝國政府ノ抗議ヲ本國政府ヘ電報スヘク自  
分モ最善ノ努力ヲ盡シタント答ヘタル趣ナリ

更ニ先方ノ正式回答ヲ督促スヘキモ結果如何ニ依リテハ當  
方及貴地双方ニ於テ本件經緯及抗議内容ヲ發表スルコトト  
致度其ノ時期等ニ付テハ追電スヘシ  
本電及冒頭貴電共ニ米ヘ轉電アリタシ

1420

昭和16年11月7日

東郷外務大臣より  
在パナマ秋山公使宛(電報)

営業禁止問題に関するわが方抗議への回答を  
在本邦パナマ公使へ督促について

本省 11月7日後8時発

第九五號

六日「フエラリー」公使ヲ招致シ山本局長ヨリ前回ノ抗議  
ヲ外務大臣ヘ電報セルヤヨ確メ且ツ本日ハ右ニ對スル巴奈  
馬政府ノ正式回答ヲ承ハリタシト述ヘタル處同公使ハ日本  
政府ノ抗議ニ次第ハ本國政府ヘ電報セルカ(別電第九一號)  
最近ハ本國政府ヨリ殆ント何等ノ情報モナキ實情ニテ苦慮  
シ居レリ又大統領トハ昵近ノ間柄ニテモアリ私信ヲモ發送  
セルカ便船關係モアリ本國政府ノ正式回答力求急ニ得ラル  
ルヤ否ヤ確言致シ兼ヌト答ヘタルニ付局長ヨリ重ネテ至急  
回答方ヲ督促シ置キタル趣ナリ

次ニ局長ヨリ非人道的行爲及人種的差別待遇ノ點ハ帝國政  
府ノ最モ重大視スル所ニシテ今次巴奈馬政府ノ非友誼的態  
度ハ絶對ニ容認シ得スト述ヘタルニ對シ同公使ハ自分ハ力  
ネガネ日本人ハ所謂黃色人種トハ別個ノ範疇ニ屬ストノ考

ヲ抱懷シ居ルモノナルカ日本人ハ自ラ黃色人種ナリト稱ス  
ルカ故ニ却テ問題力重大化スルヤノ觀アリト逃ケタルニ付  
局長ヨリ人種的差別待遇ノ排除ハ帝國ノ大方針ノ一ニシテ  
主義上絶對ニ枉クルコトヲ得ス巴奈馬政府ノ措置ハ唯ニ日  
本人ノ爲ノミナラス全亞細亞民族ノ爲ニ憤激ヲ禁スル能ハ  
ス此ノ點巴奈馬政府ニ於テモ特ニ銘記スル要アリト強ク釘  
ヲ打チ置キタルニ對シ同公使ハオ話ノ點ハ本國政府ヘ傳達  
スヘク巴奈馬トシテハ今次政變ノ際ニモ明白ト成レル如ク  
米國ニ抑ヘラレ居ルカ故ニ獨自ノ事ハ何モ出來ス此ノ點ハ  
比律賓ト同様ナリト零シ居タル趣ナリ

米へ轉電アリタシ

~~~~~

1421

昭和16年11月7日 在パナマ秋山公使より
東郷外務大臣宛(電報)

當業禁止問題に関するわが方抗議を拒否する
旨のパナマ政府公表文の新聞掲載について

バナマ 11月7日後発

本省 11月8日後着

七日夕刊ハ一面「トップ」全部ニ亘ル大見出ヲ附シテ帝國
政府ノ正式抗議拒否ニ關シ「センセイシヨナル」記事ヲ掲
ケ官邊ニ於テ最モ重大視シ居レルハ抗議ノ終リニ於テ本件
ノ責任ハ巴奈馬側ニアル旨注意ヲ喚起シ覆面ノ脅威ヲナセ
ル點ナリト報シ且左記公表文ヲ掲載ス

昨六日開催セラレタル閣議ニ於テ巴奈馬駐在日本公使ヨリ
提出セラレタル法律第二條四號ヲ日本臣民ニ適用スルニ關
(十九)
スル正式抗議ヲ考究セリ

右抗議ハ强硬ナル字句ヲ使用シ國家機關ヲ侮辱スルカ如キ
モノナリ右法律ヲ以テ日本人ニ對シ差別的ナリト非難シ又
右法律ノ適用ハ非人道的慘忍ナリト主張シ最後ニ日本政府
ハ本件ニ關スル巴奈馬政府ノ責任ニ關シ注意ヲ喚起シテ結
ヒトナシ居レリ

閣議ハ右抗議力根據ヲ缺ク故ヲ以テ之ヲ拒否スルコトニ決
定セリ右法律ハ決シテ日本人ニ對シ差別的ニ非サルノミナ
ラス其ノ禁止規定ハ禁止移民ニ非サル或ル種ノ個人ニモ關
聯スルモノカアリ即チ右法律ハ特ニ或ル特定一國ノ臣民ヲ
目標トスルモノニ非サレハナリ

第一五六號(大至急)

他面政府ハ右法律ハ根本的國內利益ニ應スルモノト思考シ

本件ニ關シ外ノ國ノ容喙ヲ許サス

巴奈馬ハ國家トシテ其ノ正當ノ「アスピレシヨン」ヲ實現シ巴奈馬國ノ權利ヲ行使スルコトニ付制限セラルニ對シ之ヲ受諾スル能ハス況ヤ侮辱的ニシテ友好國間ニ於ケル外

交交渉ニ慣例トナレル禮讓ト端正ニ反セル言辭ヲ弄シ居ル二於テオヤ

1422

昭和16年11月8日

東郷外務大臣より
在パナマ秋山公使宛(電報)

パナマにおける營業禁止問題に關し外務當局

談發表について

別 電 昭和十六年十一月八日發東郷外務大臣より在

パナマ秋山公使宛第九九号

右外務當局談

本 省 11月8日後7時30分發

第九八號(大至急)

八日別電第九九號ノ通外務當局談ヲ發表セルニ付貴方ニ於テモ適宜發表アリタシ

本電別電ト共ニ米、及在中南米各大公使ヘ轉電アリタシ

(別 電)

本省 11月8日後8時發

第九九號

巴奈馬政府ハ本年一月憲法ヲ改正シ「黃色人種」ヲ「好マシカラサル人種」ト目シテ黒人等ト同一待遇ナル禁止移民ニ指定シ續イテ本年三月禁止移民國人ノ營業ヲ禁止スル趣旨ノ商工業取締法ヲ制定シ以テ在留邦人ノ締出シヲ企テタル處帝國政府ハ右禁止法律阻止ニ百方努メタル結果「アリ

アス」前大統領ハ邦人商社中ノ主ナルモノノ存續及ヒ在留邦人ノ農業轉向ヲ許可シ農耕用土地ノ無償提供ヲ約シ右邦商存續ノ方針ヲ閣議ニ於テ決定スル所アリタリ然ルニ過般同大統領カ巴奈馬船ノ武裝ヲ禁止シタルコトニ端ヲ發シ十月八日ノ「クーデター」勃發トナリ同大統領ハ「ハバナ」ヘ亡命シ代リテ「ラ、ガアルディア」現大統領ノ就任ヲ見直チニ米國政府ノ承認スル所トナリタルカ爾來新政府ノ對日態度ハ急ニ惡化シ前大統領時代ノ前記閣議決定ハ覆サルニ至リ遂ニ十月二十八日秋山公使ニ對シ十月二十九日以後在留邦人全部ノ營業許可ヲ取消ス旨通告シ來リ右措置ノ

延期ヲ肯セサルノミナラス邦商ノ「ストツク」處分ノ爲ノ猶豫期間スラ承認セス且右ハ最後的決定ニシテ再考ノ餘地全然ナシトテ頑トシテ我方ノ申入レニ耳ヲ藉ササル態度ヲ固守シ居レリ右ハ巴奈馬政府カ巴奈馬運河地帶近邊ヨリ日本一人ヲ一掃セントノ決意ヲ固メタルニ因ルモノト認メラレ帝國政府ノ深ク遺憾トスル所ナリ

今次巴奈馬政府ノ措置ハ人種的差別待遇ヲ實施セントスルノミナラス在留邦人ノ生活ノ途ヲ奪ヒ路頭ニ迷ハスノ結果トナルモノニシテ類例ナキ非人道的暴舉ト言フヘク又人種的差別待遇ノ排除ハ帝國ノ大方針ノ一ニシテ全亞細亞民族ノ爲ニ默視スル能ハス巴奈馬在留邦人力夙ニ巴奈馬ノ發展ニ貢獻シ來リ又帝國力常ニ兩國國交ノ敦厚化ニ努メ來リタルニモ拘ラス今回斯クノ如キ常軌ヲ逸シタル非友好的措置ニ出テタルコトハ如何ニ巴奈馬カ國際的ニ特殊ノ地位ニ在リトハ云ヘ帝國政府ノ絶對ニ容認シ得サル所ナリ帝國政府ハ巴奈馬政府カ自主的態度ニ立歸リ他國ノ掣肘ヲ受ケヌ本件ノ友好的解決ヲ計ル様切望スルモノナリ

尙帝國政府ハ本月一日及七日在京巴奈馬公使ニ對シ嚴重抗議スルト同時ニ在巴奈馬秋山公使ヲシテ巴奈馬政府ニ對シ

1423

昭和16年11月10日

(在パナマ秋山公使より
東郷外務大臣宛(電報))

営業禁止措置に関するわが方抗議および差し当たりの要求に対しパナマ政府回答提出について

別電一 昭和十六年十一月十日発在パナマ秋山公使よ

り東郷外務大臣宛第二六八号

右わが方抗議への回答

二

昭和十六年十一月十日発在パナマ秋山公使よ
り東郷外務大臣宛第二六九号

右差し当たりの要求への回答

パナマ 11月10日後発

本省 11月11日前着

第二六七號(大至急)

往電第二四三號ニ關シ

十日午後三時使ヲ以テ同日附ニテ我方正式抗議並ニ差當リ要求ニ對シ別電第二六八號竝ニ第二六九號ノ通り回答シ且

往電第二五〇號ノ一開店要求ニ對シテモ右回答ニ依ラレタ

シト通告シ來レリ要スルニ往電第二五六號先方公表文ト同一趣旨ニテ全面的ニ拒否セル次第ナリ右不取敢

(別電一)

パナマ 11月10日後発

本省 11月12日前着

第一六八號
(慣用文句ヲ略ス)

五日附日本政府ノ訓令ニ依ル法律第二四號ノ規定ヲ日本人ニ適用スルニ關スル閣下正式抗議ヲ受領セリ右公文ニ於テ閣下ハ差別的ナリト非難セラレ且當國政府ノ態度ヲ前例無

キ非人道的殘忍ト斷セラルカ右非難(charge)ノ内第一二

關シテハ該法律カ日本人ヲ差別スト爲セルハ正確ニアラス

何トナレハ右禁止規定ハ一面ニ於テハ各國ノ臣民タル禁止

移民タル個人ニ關スルモノニシテ他面ニ於テハ禁止移民タ

ラサル個人ニ關スルモノナリ即チ右法律ハ特ニ一箇國ノ臣

民ヲ目標トセルモノニアラサルコトヲ貴國政府ニ御電報セ

ラレタク又「非人道的殘忍」ヲ犯シ(註當方ハ constitute ト

言ヘルヲcometerナル文字ニ變更ス)ト言ハルルニ關シテハ

該法律カ六箇月ノ猶豫期間シカ持タサル際ニ於テハ右期間以上ノ猶豫ヲ與ヘ右適用ヲ受クル個人カ其營業ヲ清算シ且各個人ノ必要ナル手段ヲ採ル爲ニ充分ナル期間ヲ與ヘ居ルニ付殘忍ハ存在セス閣下ノ非難ハ事實ノ眞實性ト合致セス

ト思考ス

閣下ハ黃色人種ヲ禁止移民トセル憲法ノ條文ニ言及シ右分類ニ日本人ヲ包含セシムルニハ右ノ如ク定ムル特別ノ決定ヲ必要トシタリト申シタルモ右主張ハ何等根據無シ何トナレハ黃色人種ノ名稱ハ總テノモノノ好ク知ル所ニシテ右名稱ノモノニ包含セラルモノヲ決定スルニハ大ナル解釋ヲ必要トセサレハナリ

他方我ガ政府ニ於テハ本法律ハ根本的ニ國內的且國家的利益ニ應スルモノナルニ付他ノ政府ノ如何ナル介入ヲモ許サ

サル問題ナルコトヲ御通知ス共和國ハ其ノ傳統政策ニ基キ

諸外國トノ友好關係ヲ維持増進スルコトヲ希望スルモノナ

ルモ法律ノ成レル絕對的ニシテ且根本的ノ必要ハ如何ナル

理由アルモ無視スルヲ得ス

右ノ外該抗議カ國家制度(National Institution)ニ對スル侮辱的字句ヲ以テ爲サレ居ルニ付之ヲ受諾(accept)ハ得サルコ

トヲ表明スルノ已ム無キニ至レリ貴信中ニ含マルル「オフエンシツ」ナル表現ヲ容認(tolerar)スル意無ク殊ニ其ノ末尾ニアル「帝國政府ハ巴奈馬共和國政府ノ注意ヲ喚起ス」ト云フ字句ニ至リテハ殊ニ受諾スルヲ得ス

本法ノ如ク國內的性質ヲ有スル事項ニ關シテハ巴奈馬政府ハ閣下ノ代表(慣用語タル Delegamiento ト云フ文字ヲ除ク)セラルル政府カ「注意ヲ喚起シ」又ハ其他如何ナル方法ニ依ルモ注意ヲ促シ若クハ脅迫セラレタルコトハ假令瞬間タリ共受諾スル能ハス

最後ニ當國政府ハ外交使臣カ自國民ノ爲 Representation ヲ爲シ及必要ト認ムル protest ヲ行フノ權利ハ否認セサルモ右ハ友好國政府間ノ外交交渉ニ普通使用セラルル禮讓ト敬意ニ反スル字句ヲ以テ爲スコトヲ容赦(dispuesto a permitir)シ居ルコトヲ意味スルモノニアラサルコトヲ茲ニ附言ス

(別電二)

パナマ
本省
11月10日後発
11月11日後着

第一六九號

1424

昭和十六年11月12日 在パナマ秋山公使より
東鄉外務大臣宛(電報)

パナマ政府回答に対する措置振りにつき意見

具申

別電 昭和十六年十一月十二日發在パナマ秋山公使

より東鄉外務大臣宛第二七五号

パナマ政府への再抗議案

パナマ
本省
11月12日後発
11月12日夜着

第二七四號(絕對極祕、大至急)
往電第二六八號ニ關シ

一、先方ノ回答ハ全然誠意ヲ缺キ寧口完全ニ敵國視スル往電
第二三五號^(編注)ノ態度ニテ書カレタルモノニシテ巴國ノ回答
ニ非スシテ小國ヲ使嗾シテ之ヲ通シテノ傲慢ナル米國ノ

回答ナリ米國ハ其ノ心臓タル運河防衛ノ爲ニハ樞軸國關係者(本使ヲ含ム)ヲ一切追拂ヒ此ノ際邦人力餓死スルトモ戰時「インターーン」スル厄介サヲ此ノ機ニ乘シテ避ケントスルモノニシテ十月三十日ニモ或ル機會ニ運河總司令官ハ本使ニ對シウツカリ「貴公使ハ今回ノ巴國政變ニ付米國ヲ「アキユーズ」セサリシヤ」ト洩ラシ(本使ハ之ヲ相手トセサリキ)或ハ前大統領「アリアス」カ本使ニ對シ日本人ヲ見テ遣リタキモ大國トノ關係上思フ様ニモ出來スト洩ラセル點ヨリ見テモ或ハ又同大統領カ對米關係上巴國主權擁護ノ爲本使來任ヲ歡迎セルニ反シ現政府カ極力米國ト

歩調ヲ一ニシテ敵國使臣扱ナスヨリ見ルモ誠心誠意國交ノ敦厚ヲ計ラントスル本使ノ熱意カ巴國ノミナラス米國ニ通セサルハ甚々遺憾ニシテ紐育「タイムス」紙特派員(^{〔備註〕})「ウエルズ」(米國國務次官ノ子息)ノ如キ同紙上ニ一々在當地日本ヲ含ム樞軸國代表ヲ「スペイ」視セル記事ヲ掲ケ居ルヲ見テモ本件收拾策ハ世界政局ノ安定即チ邦船ノ運河通航可能時ヲ以テ交渉スルニアラサレハ全面的二入國竝ニ居住ニ付解決ヲナシ得スト存ス

三、今日ノ場合ニ於テハ本件ニ依ル時局收拾善後策措置ヲ考ヘルニ巴奈馬政府ナル米國ノ「パペツト」ヲ通シ米國ト交渉スルニ等シク巴國ノ如何ナル有力者ヲ物色スルモ此ノ際米國ノ壓迫ヲ排シテ迄日本ト和協妥結ノ内交渉ヲナシ得ルモノナシ殊ニ大統領外務大臣及農商大臣(外相ノ從弟)ニ至リテハ

米國ノ完全ナル下効ニテ往電第一三五號ノ五、樞軸反對ノ氣勢舉ケタルハ右閣僚等ト本使ハ睨ミ居ルニ付問題ニナラス或ハ前大統領且前駐米大使「ボイド」(故齋藤大使ノ知人)ヲシテ收拾持チニ努力セシメンカト考ヘ居タルモ是亦米國アリテノ政治生命ニテ日本人ヲ是非共運河地帶ヨリ排斥セントスル米國々策ヲ知レル同氏トシテハ到底其ノ任ニ耐ヘサルヘシ

三、先方ノ回答ヲ熟讀スルニ本使ノ正式抗議カ帝國政府ノ抗議ヲ其ノ儘轉達シ其ノ回答ヲ請求セルノミナルニ拘ラス外相ハ恰モ本使個人カ外交儀禮ヲ辨ヘサルカ如キ難癖ヲツケ或ハ本使ニ「パーソナルノングラタ」ヲ突キ付ケント恫喝スルカ如キ言分ニテ且ツ十一日ノ朝刊論調モ西班牙公使事件ニ引掛ケテ其ノ氣配ヲ示シ居レルカ

斯カル個人的二本使ヲ恫喝シ抗議ヲ封シ形式論ニテ問題ヲ誤魔化シ本筋ノ協調ヲ行衛不明トスル態度ハ本使力誠

心誠意相共ニ日巴國交ヲ敦厚ナラシメントスル努力ヲ全然買ハス寧口巴政府ノ責任ヲ忌避シ損害賠償ヲ誤魔化サントスル卑怯ナル魂膽以外何物ニモ非ス

四、先方回答ノ對策トシテハ本使ヨリ別電第二七五號位ノ返

答ヲ與フルナラハ兎ニ角右以上斷乎トシテ條約一切ノ主張ヲ行ヒ巴國責任ヲ追究セハ二、ノ如キ事態乃至本使引揚ノ決意ヲ要ス從テ右ノ場合ニハ返答ヲ呈示セル後直二大

統領ニ對シ外務省ハ新政府成立ノ時米國ニ對シテハ即時

通告ヲ發表スル程ノ親切ナル態度ヲ執リ乍ラ本使ニ對シテハ他國ヨリハ早カリシモ二日遲レテ通牒シ或ハ正式抗議ニ對スル回答ヲ政府公表文ヨリ遲ラシ通告スル等

不誠意ナル行爲ヲ重ネ居ルニ付何トカセヨト(更迭ノ意)述ヘ聽カサレハ本使ハ此ノ際代理ヲ設ケ當國ヲ去ルトノ聲明ヲナシ先手ヲ打チテ歸朝スルモ小細工ナルモ一案力ト存ス

五、特ニ此ノ際注意セラレタキハ我方差當リ要求ノ(三)邦人資產ノ我公館ニ依ル管理問題ナリ右ハ提出ノ時「パ」外相

ノ注意ヲ直ニ惹ケル點ナルカ本十一日獨公使ノ内話ニ依レハ日本ハ巴奈馬占領位ノ考アリト噂サレ居ルカ右ノ如キ要求ヲ正式抗議ト共ニ提出シアリヤト質問シ本使之ヲ否定シ置キタルカ米國ハ之ヲ逆用セントスル氣配アルヲ特ニ御警戒相成度シ

六、翻テ考ヘルニ日本人ヲ全面的ニ排除セントスル米國國策ヲ改メ運河開放ヲ認メシメサル以上帝國カ巴國ヲビシビ

シ極メ付ケルモ大人氣ナキ話ナルニ付帝國ノ正式抗議以來

米國ハ我方要求強ケレハ強キ程當國ニ居殘ルヲ疑ヒ今ヤ

此ノ機ヲ利用シテ巴國ヲシテ毒皿的ニ邦人ノ殘サレタル勞働轉向サヘ妨害シ當國ヨリ全部追出サシメント努力スル兆歷然タルモノアリ今日ノ米國ノ態度ハ先ツ獨日ノ中

弱シト見タル日本ニ對シ先手ヲ打チテ戰爭行爲ニ出ツルカ如キ氣配モアリ本使ノ遣方ニ依リ累ラ帝國外交ノ全局ニ及ホスカ如キハ本使トシテ甚タ不本意トスル所ニシテ往電第二三五號申進ノ次第モアリ此ノ際ハ一時先方ノ回答ヲ本使ハ握潰シ東京ニ於テ充分ナル反擊ヲ與ヘ我方主張ヲ斷乎再應聲明シテ他日ノ爲留保ヲナシ之ヲ「ヘラ

リ」公使ニ與ヘテ當地ニ於テハ何等「ステップ」モ執ラ
ス嚴重米國ノ態度ヲ監視スルコトモ一案カト存ス
以上長文ナルモ卑見ヲ閣下竝ニ帝國政府ノ前ニ披瀝シテ本
使今後執ルヘキ措置ニ對シ何分ノ御訓令ヲ仰ク

編注一 『日本外交文書 第二次歐州大戰と日本』第二冊上第

122文書。

二 『日本外交文書 第二次歐州大戰と日本』第二冊上第
123文書。

(別電)

パナマ 11月12日後發
本省 11月12日夜着

第二七五號

日本政府ノ根本的關心ハ日本臣民カ他ノ文明國ノ市民及臣

民ニ比シヨリ低キ地位ニ置カレサル點ニ存シ又差別ト言ヘ
ルハ他ノ諸國ノ國民カ引續キ營業出來ルニ拘ハラス日本臣
民カ之ヲ爲ス能ハサル點ヲ指スナリ

猶豫云々セラルモ日本人ハ正式ニ許可ヲ得テ入國シ共和

國ノ法律ニ基キ其ノ經濟的活動ヲ爲シ來リタルモノナルカ
其ノ中或者ハ「ストツク」ノ賣却ヲ爲ス能ハス又他ノ者ハ
貧窮ノ爲餓死ニ瀕スルモノアリ特ニ茲ニ明記スルハ該法制
定以來當公使館ハ巴奈馬政府ト交渉ヲ續ケ來リ巴奈馬政府
ニ於テハ右ニ好意ヲ有シ日本商店全存ヲ公表セラレタル事

スラアリ日本人ハ最後迄營業繼續可能ヲ確信シ
法律二十四號ノ理論及適用ニ關シテハ本使ハ之ヲ理解ス
ルニ咨ナラサルモ前記理由ニ基キ再考慮アリタシ
正式抗議ヲ決定スルニ當リ巴奈馬政府ヲ侮辱シ又ハ脅迫的
歸國ヲ爲セリ等判斷セラレタルハ意外ニシテ日本政府ノ希
望ハ日巴兩國國交ノ障礙トナルヘシト思考セラルル本件ヲ
双方満腔ノ誠意ヲ以テ解決セントスルニ外ナラス

1425

昭和16年11月20日 在パナマ秋山公使より

東鄉外務大臣宛(電報)

わが方再抗議に対するパナマ政府の態度につ
いて

パナマ 11月20日後發
本省 11月21日夜着

第三〇八號
往電第三〇三號ニ關シ

二十日外務大臣ニ會見セル處從來ニ比シ先方ハ甚々慎重且
懲勲的態度ヲ以テ應接セルカ

(見当ラズ)

(一)冒頭電再度ノ申入ニ對シテハ回答ハ近ク發スルモ營業統

制法ノ法規ハ充分實施シ枉ケルヲ得ス

(二)又在留民ヲ日本ニ送還スル方途ナキヤト言ヘルニ付本使

ヨリ全ク今日ハ存在セス故ニ船舶ノ都合着ク迄生活ヲナ

サシムルコト是非共必要ナリ殊ニ市長ノ言ニ依レハ勞働

轉職サヘ拒否スル意嚮ナルハ甚々心外ナリ(往電第三〇
七號參照)ト言ヘル處夫レ迄トハ思ハサルニ付早速農商

務大臣ニ電話スヘシ

(三)目下巴奈馬ニ於テハ獨逸人ノ今後ノ處分ニ弱リ居リ「キ
ヤンブ」ニ入レンカトモ考へ居レリト附言シタルニ依リ

本使ヨリ右様ノ心持トナラス圓滿且誠意アル解決ヲ爲ス
コトカ眞ニ貴大臣モ本使モ兩國ノ爲盡スヘキ道ナリト確
信スルニ付我方ノ申入ヲ此ノ意味ニ於テ考慮サレタキコ
トヲ述ベ

(四)最後ニ大臣ヨリ公表ノ如キ場合ニハ相談後トサレタシト
使ヨリ同様ノ申出ヲ爲シ居ルヤ(本使ハ日本政府ノ訓令

1426

昭和16年11月20日

在ブラジル石射大使より
東郷外務大臣宛(電報)

パナマにおける邦人圧迫に關しローマ法王使
節へ合理的解決に向け調停方要請について

リオデジヤネイロ 11月20日後發
本 省 11月21日前着

第四六七號

貴電第二六三號ニ關シ(巴奈馬ニ於ケル邦人壓迫措置ニ關
スル件)

一、本使十九日當地羅馬法王使節ト會見シ巴奈馬ノ日本居留
民ニ對スル非人道的措置茲ニ「パ」政府カ同日本公使ニ
對シ交渉ノ餘地ヲ與ヘサル事情ヲ説明シタル上事人道ニ
モ關スル遣方ナルヲ以テ此ノ上ハ貴使節ヨリ「パ」政府
ニ對シ本問題ノ合理的解決ニ應スル様 influence 及 good
offices ヲ用ヒラレマシキヤト申入レタル處使節ハ「パ」
國及「パ」國附近國ニ於ケル法王使節ニ對シテモ日本公
使ヨリ同様ノ申出ヲ爲シ居ルヤ(本使ハ日本政府ノ訓令

ハ本使宛トナリ居ルヲ以テ本使ヨリ貴使節ニ御願ヒスル
次第ナリ尤モ右訓令ハ本使ヨリ「パ」國近隣國ノ日本公

使ヘ轉電シアルニ付之等公使ヨリ當該地ノ法王使節ニ御
願シ居ルヤモ知レスト答フ)
⁽²⁾

及南米諸國政府ノ Good offices ヲ求メラレサルヤ(之ニ對
シ本使トシテハ巴奈馬日本居留民ノ一部又ハ全部ノ移入
方ヲ伯國政府ニ申入ルル積リナルモ伯國ノ Good offices

ハ求メスト答フ)等ノ質問ヲナシタル後貴大使ノ申出ハ
之ヲ諒承セリ然シ自分トシテハ貴大使カ日本政府ノ訓令
ニ基キ來談セラレタル次第ヲ自分ヨリ羅馬法王ニ電報シ
法王ノ措置ヲ請フコトカ最善ノ方法ナリト思考スル處夫
レニテ差支ナキヤト言ヘリ本使ハ日本政府ノ訓令ハ貴使
節ヨリ巴國政府ヘノ勸告ヲ請フヘシト言フニ在ルモ貴使
節ニ於テ最善ト思考セラルル措置ヲ執ラルコトニ異存
ナシト答ヘ置キタリ(使節ノ態度ハ終始頗ル熱心ニ見受
ケラレタリ)

尙本使ハ巴奈馬ノ事態ハ急迫シ居ルニ付之ニ關スル何分
ノ御措置ハ早キヲ尊フコト、本使ヨリ貴使節ニ對スル御
願ハ内密ニ取扱ヲ願度キコト及法王廳ニ於テ何等御決定

1427

昭和16年11月22日

在ブラジル石射大使より
東郷外務大臣宛(電報)

パナマにおける邦人圧迫に対し善処する旨
をローマ法王庁回答について

アリ次第本使ニ御通知アリ度キコトヲ附言セルニ使節ハ
之ヲ了承セリ

二、以上會談ノ成行ハ本使カ略豫想シタル所ニシテ出先使節
トシテハ法王廳ニ經伺ヲ要ストナスハ無理カラヌ次第ナ
リト存ス事情右ノ如クナル以上在本邦法王廳使節ニモ申
入レラルコト適切ナリト存セラル

三、⁽⁴⁾巴奈馬居留民ノ移入方ヲ當國政府ニ申入ルルコトハ「ア
モニヤ」外相ノ歸任ヲ俟ツテ之ヲ試ムヘキモ伯國ノ立場
上及移民ノ極度制限ヲ眼目トスル新旅券查證規則上到底
動カサルヘシト案シ居ルニ次第ナルカ方々ノ憐憫ヲ請フヨ
リハ一層ノコト巴奈馬居留民ノ大部分ヲ日本ニ引取方御
工夫アリテハ如何カト存ス

在中南米大公使米ヘ轉電セリ

尙本使ハ巴奈馬ノ事態ハ急迫シ居ルニ付之ニ關スル何分
ノ御措置ハ早キヲ尊フコト、本使ヨリ貴使節ニ對スル御
願ハ内密ニ取扱ヲ願度キコト及法王廳ニ於テ何等御決定

8 パナマにおける邦人への営業停止問題

リオデジヤネイロ 11月22日後発

本省 11月23日後着

第四七二號

往電第四六七號ニ關シ

本二十二日法王廳使節來訪シ昨夜法王廳ヨリ回電ニ接セリ

右ニ依レハ法王廳ニ於テハ早速電報ヲ以テ本件ニ關スル詳
シキ事情ヲ質シタル上適當ナル措置ニ出テタシトアリ法王

廳カ何レヨリ實情ヲ求メントスルヤハ電報ニ指示ナキモ恐

ラクハ華府及「コスタリカ」(巴奈馬ヲ兼轄ス)駐在ノ使節

ニ質シタルコトト思ハル尙此ノ種事件ニ關シテハ法王廳ハ

内密ニ適當ナル措置ヲ執ルニ慣レ居ル事ハ自分ノ附言シ得

ル所ナリト述ヘタルニ付本使ハ右詳細ノ事情ニ關シテハ巴

奈馬ニ於テ日本公使ヨリ同地駐在ノ使節ニ聯絡ヲ執ルコト

最善ト思考セラルニ付此ノ旨在巴奈馬公使ヘ電報シ置ク

ヘシト答ヘ置ケリ尙法王廳ヨリ當地使節ニ對シ何等指示ア

リ次第更ニ聯絡スルコトニ打合セ置ケリ

冒頭往電通り轉電セリ

1428 昭和16年12月4日

在パナマ秋山公使より
東郷外務大臣宛(電報)

営業停止措置に対し在庫処分の猶予などをバ

ナマ外相へ要求について

パナマ 12月4日後発

本省 12月5日前着

第三六四號

四日外務大臣ニ面會我方第二次申入レニ對スル回答ハ何時

頃得ラルヘキヤト質問セル處先方ハ法律ハ此ノ儘實施シ人

種差別、既得權尊重等ニ付テハ日本側ノ主張ヲ承認スル能

ハス「コスタリカ」大統領來巴等ノ爲多忙ナルカ遲クモ此

處一週間以内ニハ御返事ヲ差上得ヘシト言ヘルニ付本使ヨ

リ原則論ハ扱テ置キ七月七日ノ公表ニテ少クトモ天野、都

ハ營業ヲ繼續シ得ルトノ前提ノ下ニ商賣ヲ續ケタルニ付其

ノ損害ノ賠償殊ニ天野ノ在庫品處分ニ要スル猶豫期間ヲ與

フヘキハ當然ニシテ帝國政府ニ於テハ巴奈馬ニ對シテ親密

コソ示セ他意ナク現ニ第三國ヘノ居留民ノ轉入ニ付テモ努

力シ居リ龍田丸モ來航スルト言フ程兩國ノ友好關係維持ニ

努力シ居ルニ依リ巴國側モ之ニ答ヘラレンコトヲ望ムト言

ヘル處大臣ハ過日閣議ノ席上農商務大臣ニ七月七日ノ公表乃至約束ヲ爲セルヤ否ヤニ付問糺セル處何等「コンミツト」セルコト無シト言ヒ居リ自分ハ其ノ言ヲ信セサルヲ得スト言ヘルニ付本使ヨリ右様ニ否定セラルルナラハ當時ノ代理タル井澤書記官ト農商務大臣ト對談セシメ貴大臣カ之ヲ聞キ居レハ明白ニナルヘシト言ヘル處外相ハ夫レ迄ニハ及ハサルヘシ天野ノ在庫品ハ一括處分出來サルヤト問ヘルニ付三十五萬弗ニモ上ル在庫品ハ市場狹キ巴奈馬ニテハ一括處分出來ス少クトモ三箇月乃至六箇月ノ猶豫ヲ必要トスヘシ尙本使トシテハスル問題ニテ日巴友好關係ノ交渉ヲ長引スハ遺憾ナルニ付至急圓滿ナル解決ヲ希望スル旨述ヘタル處大臣ハ自分モ其ノ希望ヲ同シフス（此ノ時日米關係ヲ氣ニシテ種々質問セルニ付本使ヨリ戰爭ハ何物ヲモ解決シ得ス目下日本ハ華府ニ特使迄出シ努力スルノ誠意ヲ示シ居レリト述ヘ大臣之ヲ肯定ス）兎ニ角早目ニ回答ヲ差上タル様努ムヘシト述ヘタリ

尙理髮屋カ農業其ノ他勞働等ニ就職スルコトニハ異議無シト答ヘタリ

